

法政大学 同窓会会報

社会学部同窓会

第8号

発行 法政大学
社会学部同窓会事務局
(月・水)

住所 〒194-02
東京都町田市相原町4342

☎・FAX 0427-83-2421

二季連続優勝 今春 東京六大学野球で 法政大が 全日本大学野球でも 10年ぶりに 頂点へ

東京六大学野球95春季リーグ戦で、法政大が秋春二季連続、昭和5年秋の初優勝以来、通算35度目のVを飾った。

今季は苦しいシーズンであった。初戦の立教大は二戦とも難なく下したが、次の慶應大には土壇場のサヨナラ勝ちで二勝一敗。東京大は二戦とも

逆転勝ち、早稲田大には苦戦を強いられ、一勝二敗で勝ち点を落とし、二位転落。明治大との戦い

に賭け、一回戦劣勢を跳ね返して逆勝ち、二回戦は緊迫した投手戦となり、延長11回裏二死満塁の好機に粘りに粘って押し出し四球を選び、サヨナラ勝ち。早慶戦の結果一敗を喫したため、勝率で上回った法政大の優勝が決まった。

今季の法政大野球部は、抜きでた選手こそなかったが、他大学よりチームワークが良かった。

就任2年目の山中正竹監督(27年前の胴上げ投手)の指導のもと、選手に立心が芽生え、個々の選手が主役意識をもって、自分の役割を果たすためにはどうすればよいか、自主的に「考える野球」ができるように成長したこと——これが勝因だと評されている。

5月31日、恒例の、神宮からの優勝パレードと市ヶ谷キャンパスでの祝勝会が盛大に催された。

法大OBの最高裁判事就任



祝賀会での遠藤氏

本年二月、法政大学法学部講師として四〇年間、民法(債権法)のゼミを担当してきた遠藤光男氏が最高裁判事に就任された。遠藤氏は一九五二年の法大法学部卒で弁護士

として法曹実務の第一線で活躍されてきた方である。法政大学の法学に対する社会的評価のあらわれであり、法政大学総体としての名誉であろう。

遠藤氏は、三月に開かれた法大関係者による祝賀会の席上、「その職責の重さに身の引き締まる思いである。官学出身者が多いこの世界で、孤軍奮闘の心意気で頑張っていきたい」と語られた。

日本一の栄冠にも輝く

6月10日から神宮球場で開催された第44回全日本大学野球選手権大会で、法政大は投打にわたって主役が活躍し、10年ぶり単独最多となる7度目の栄冠を勝ち取った。

第一シードの優勝候補に挙げられた法政大は、二回戦から登場し、大阪学院大に猛打17安打で14-3と大勝。つづく準々決勝対創価大戦は、相手打線を1点に抑さえる浜田投手の好投と連日の打線の爆発で8-1の8回コールド勝ち。

準決勝は首都大学野球の覇者日本体育大に6-1と快勝。6月19日の決勝戦では、強豪の東北福祉大を、4番主砲副島選手の本塁打、切れ目のない打線、分厚い攻撃、二

番手矢野投手の快速球で反撃を断ち、9-5で破った。「強い法政大」の復活を印象づけるものとなった。

7月27日夜、新高輪プリンスホテルでこの二つの優勝を祝して大学・OB挙げて盛大に祝賀会が開催された。社会学部同窓会からも遠藤伸男・河村正作・鈴木章孔各副会長、原春夫理事が参加し

